



今月のトピック

定植時に根鉢をよく観察して
灌水管理しましょう



全国的に梅雨入りし、蒸し暑い時期になりましたね。早い圃場ではそろそろ苗の植えつけが始まるところもあるかと思います。今回は、高温期の定植で注意していただきたい「根鉢に合わせた管理」についてご紹介します。

定植時の根鉢の状態に注意しましょう！

「ココバッグに苗を定植したらなかなか活着しない・・・」、「苗を植えようと思ったら根鉢ができていないけど大丈夫かな？」といったお悩みはありませんか？**定植時に苗が培地にしっかり活着するかどうかはその後の生育に大きな影響を与えます。苗に合った灌水管理をすることで、良い栽培をスタートさせましょう！**

●定植前に根鉢の状態を確認しましょう

定植する前には、苗のポットの底まで根が張っているか確認しましょう。**ポットの底で少し根が巻く程度に根鉢ができあがっていると理想的**です。下記のような根鉢には注意しましょう。

- ☑ ポットから取り出したときに根が目立たない。
- ☑ 培土の部分が目立ち、鉢土が崩れてきてしまう。



底なしポット
の場合は
苗の裏を確認！

●もし根鉢が不十分な苗だったら？

ココバッグ栽培等、培地に苗を埋め込まない形で定植する場合、**根鉢がしっかりできていないと活着不良**になることがあります。**苗の根が十分に伸びていない場合は、数日間2次育苗*等で養生させてから定植**することをおすすめします。2次育苗が難しい場合は、本圃へ定植した後も育苗の延長期間と考え、根が伸びやすいように管理します。

◎育苗時・定植時に苗の発根を促進するポイント◎

・過剰な灌水を避ける

→鉢土が多湿になると根が伸びにくくなります。

※適切な根鉢ができていない苗の場合は、鉢土と培地を水でつなげ、根が培地へ伸びやすくなるようにしっかり灌水しましょう。

・肥料を与える

→新しい根をつくるには肥料が必要です。
定植直後から肥料を与えていきます。

* 2次育苗とは

育苗ハウスで育てた苗を本圃の栽培ベッドに仮定植し、1~2週間養生させることです。栽培ベッドにはPPフィルムなどを敷き、培地に根が伸びないようにします。ココバッグの場合は、定植穴ではないところに苗を置いて2次育苗をします。



理想的な根鉢

培土の底で
少し根が巻いている



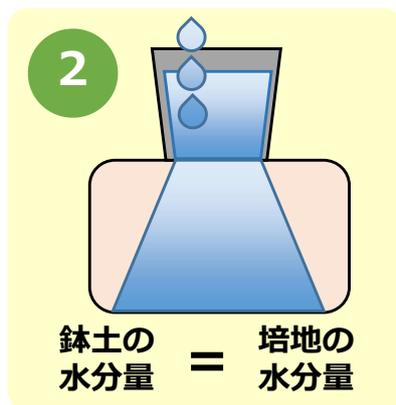
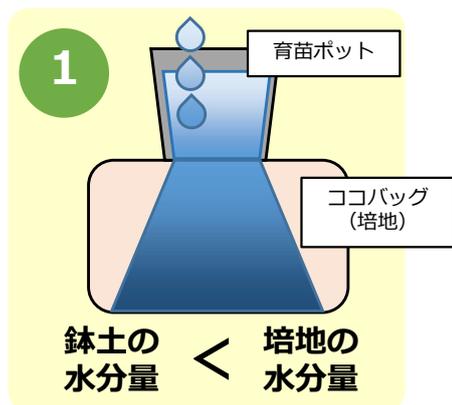
不十分な根鉢

培土が目立ち
培土を触ると崩れやすい

●定植後の水分量のイメージ

苗の鉢土と培地の水分量の関係は根の伸び方に影響します。根鉢に加えて培地の水分の状態も把握し、適切な量・頻度で灌水しましょう。

- 【パターン①】 根が水分を求めて培地に伸びていきます。
定植直後、根が培地に伸びる前のしおれには注意します。
鉢土が乾燥しないように灌水回数を増やし、ポットをしっかりと湿らせます。
- 【パターン②】 根がスムーズに培地へ伸びます。活着には問題ないことが多い状態です。
苗に必要な量を灌水し、ココバッグから排液が出ているか確認します。
- 【パターン③】 根が鉢の中で止まりやすいです。活着不良になることが多い状態です。
灌水回数を減らし、根が培地に伸びてから回数を増やしていきます。



📝 定植時のポイント

- ☑ **定植前に培地にはしっかり灌水しておく。**
- ☑ **苗に使用している培土の特性を把握しておく。**
 - ・鉢土の保水性が培地より高い場合は灌水量を調整します。
- ☑ **根鉢の状態を確認する。**
 - ・根鉢ができていない場合、培地の水分を感じられず根が培地に伸びにくくなります。
 - ・培地との水分差があると鉢の中で根が止まってしまい活着不良になりやすいです。

発根促進を助けるおすすめ資材

『フレッシュサンソ・液剤』



発根促進の定番商品！
気温が高く活着が心配な場合は
定植時からご活用ください！

【使用量】
希釈倍率100倍以上の濃度
10kg/10a

※配管内の汚れを剥離する効果があるため、養液栽培では100倍より濃い濃度では施用しないでください。



トヨタネ株式会社



1回の処理で
根が増えました！

